

宇都宮市立陽東小学校「学習支援ボランティア」

【活動の概要】 宇都宮市立陽東小学校では、保護者や地域住民を中心とした学習に関する支援をしている「学習支援ボランティア」が、定期的に活動を行っている。

【始めるきっかけ】 2002年に学校から「陽東ネット」という学校支援ボランティアの募集（「街の先生」）が掲載されているチラシが保護者向けに配付された。担当は、教務主任のA教諭であった。そのチラシを見て、以前、A教諭が担任した児童の保護者であったBさん（現在の学習支援ボランティアまとめ役）他6名が「何か自分たちでできることがあれば・・・」とA教諭に相談し活動が始まった。2002年の活動の中心は道徳の教材づくりであった。

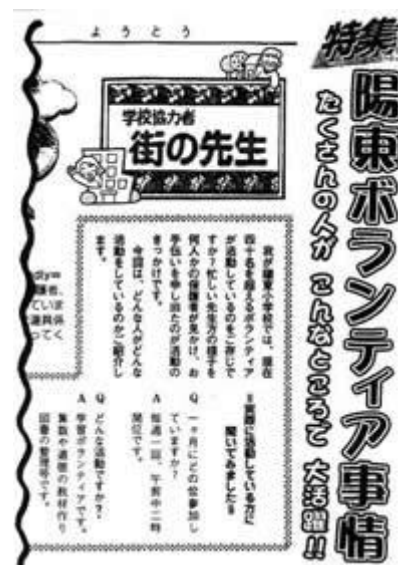
* 「街の先生」とは・・・

宇都宮市教育委員会が学校における様々な活動等を支援する市民を募集し、登録する制度。登録することによってボランティア保険に自動的に加入される。

【活動の内容】 週1回水曜日（午前10:00～12:00）に学校が用意したボランティア室（和室二十畳）で活動している。活動内容は、図書室・校舎内の掲示物・花壇等の整備、家庭科の授業の支援、算数の教材づくり、駐車場案内、清掃等、活動の場が広がっている。こうした活動内容は、担当教員とボランティアメンバーが話し合って決めているが、学校からの要望によって活動するだけでなくボランティア自身が学校内で気付いたことを活動内容として提案しているケースも多い。

ボランティアの活動の様子は陽東小学校PTA広報紙である『ようとう』に特集「陽東ボランティア事情」として載せている。その中で「こんな活動をしてみたいんだけど・・・という方は学校に連絡してみてください。」とボランティアを募集する記事も載せ、保護者からの提案も奨励している。

また、ボランティアを継続していくためには、学校側とボランティア側の信頼関係が大切である。陽東小では教材づくり等を依頼するときには教員が直接説明したり、ボランティアが作成した教材を使用しての授業の様子を写真等で報告提供したりし、多様な形でコミュニケーションを図っている。



<PTA広報紙『ようとう』>

【成果と課題】

成果としては、子育て、家庭教育に関する様々な情報交換ができ、親同士のコミュニケーションが活発になったことや、子どもたちの学校の様子を知ることができて子どもとの対話が増え、子どもをより理解できるようになった。また、教材づくりなどを通じて、いろいろな先生たちと交流ができ、学校の行事などの大切さも理解できるようになった。

学校にとっても開かれた学校づくりを推進することによって、地域の教育力を生かすことができるようになり、子どもたちも活動等への関心・態度・意欲の高まりが今まで以上にみられるようになってきた。

課題としては、基本的に週1回の活動のため、急を要する活動には応えられない場合もあることがあげられる。

* 陽東小学校のボランティアは・・・

詳述した学習支援ボランティアに加え、木曜日の朝の読み聞かせボランティア・クラブ支援ボランティア・体験活動を中心とした課外活動ボランティアの4領域にわたっている。

★ ここが特徴！

- ☆ 「街の先生」など宇都宮市教育委員会の制度を利用し、ボランティアの意欲に基づいて活動している。
- ☆ ボランティアを受け入れる学校側の態勢が整っていて、教員がボランティアに対して細やかな配慮をしている。
- ☆ ボランティア自身が自ら活動内容を考え、提案し活動している。
- ☆ 教員とボランティアの多様なコミュニケーションの場が用意されている。
- ☆ ボランティア室が整備されている。
- ☆ 子どもが卒業しても活動を継続しているメンバーが多い。